



みなみの風 1月号

【発行日】
令和7年1月31日
【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
重点目標 「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをととして～

ようこそ巳年！今年もよろしくお願いいたします ～「勇往邁進」する姿を～



新しい年が明けました。保護者の皆様、地域の皆様、そして児童の皆さん、少し遅くなりましたが、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年はどうな一年になるのでしょうか？今の教育で大切にしている「主体性」や「自他肯定」が子どもたちに備わるために、引き続き丁寧な指導・支援をしていけるよう努めます。それに伴い、保護者や地域の方々には教育課程の充実のため、今年もお願い事が多くなりそうです。これまでも、保護者や地域の皆様には、多大なるご理解・ご協力をいただき、感謝しているところですが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

自分自身は、「勇往邁進」をスローガンに果敢に挑戦する一年にしたいと思います。優しさや強さ、そして勇ましさをもってチャレンジを推奨する学校を目指します。

園との交流をととして ～成長を実感～【1年】（1月21日）

次年度に、本校に入学予定の子どもたちが来校して、1年生の子どもたちと交流しました。人数の関係で、2グループに分けての活動となりましたが、今できることを一生懸命考え、気持ちよく迎えようとするその姿は、昨年4月の頃からは想像できないほどでした。とてもうれしい成長です。さすが1年生！

とはいえ、よくよく1年生の子たちの顔を見ると、どこかこわばっているような…。やはり緊張しているのだなと思いましたが、これもよい経験になったことでしょう。終わった後のほっとした表情も印象的です。

さて、次年度の入学予定の児童数は、100名に少し届かないくらいになりそうですが、とても礼儀正しく、明るいお子さんが多いといった印象です。

幼稚園や保育園等から小学校にステップアップする際によく言われることが滑らかな接続と、情報共有の必要性です。小学校に入学すると、どうしても一番下の学年になるため、支援をしすぎる傾向にあります。現在、町教育委員会と連携して、国が推奨している「架け橋プログラム」の検討をしているところです。幼稚園や保育園ですでにできていることはもちろん挑戦させますし、うまくいかなかったとしても、自分たちで解決方法を見出し、これ以上は自分たちだけでは難しいとなった時にはじめて、他学年に協力してもらうなどの流れにしていこうと思います。子どもたちが、今以上のたくましさや粘り強さ、そして自主・自律の心を身に付けられるよう、努めていきたいと思っています。



「子育てアラカルト⑦ ～だれかのために生きる～」

この年末年始に、大分県中津市に住む次男が帰郷しました。大分家庭裁判所で調査官の仕事をしている次男は、少年審判や家事審判に関わり、多くの人が幸せな今後を送れるよう、可能な限り必要な調査・調整をしているとのことでした。しかし、なかなかハードな業務のようで、うまくいかないことも少なくないとのこと。何はともあれ、とりあえず元気そうで安心しました。

さて、次男は大分家裁の前は仙台家裁に勤務しており、大学も仙台だったため、私は毎年のように仙台を訪れていました。東日本大震災で仙台も被災をしたことは周知のとおりですが、仙台に出向いたある年、荒浜小学校という震災遺構を訪れました。学校自体は統合されて、今は遺構として当時の様子を後世に伝えるべく、見学ができるように整備されていました。とはいえ、被災後の様子が数多く垣間見え、写真展では、当時の状況が非常によくわかるものが展示されていました。感じるものがとても多かったのですが、自然災害に対する人間の非力さを痛感しました。

改めて、人間は、「生きている」というよりも「生かされている」と、私自身感じるがあります。食事は、他の動植物の命をいただいているのであり、日常では多くの場で誰かの支援が必要になります。だからこそ、時にはだれかの優しさに甘えることが必要で、時には悩み困っているだれかのために優しさを伝えることが必要なのではないでしょうか。「人権」の基本である「幸せでありたい」「自由でありたい」「生きていたい」も含め、自分のため、そしてだれかのために生きたいと考える今日この頃です。

全校朝会でのパフォーマンス 【1月21日】

1月21日は、中学年の職員が書道パフォーマンスをとおり、「笑顔」の言葉を贈りました。コミュニケーションをとるときには、電話やメール(SNS等も含む)も手段の一つですが、いずれも表情は伝わりません。やはり学校は顔を合わせて相手に思いを伝えることが中心となるので、その際の表情はとても大切になります。

個性が相対するので、いつでも笑顔でいることは難しいと思いますが、子どもたちの笑顔が少しでも多くなるよう、教育活動を改善していきたいと思えます。

なお、完成したこの作品は、児童昇降口に掲示してあることを申し添えます。



アスリートから学ぶ(5年) 【1月24日】

神奈川県ソフトボール協会の支援を受け、ソフトボール教室が5年生を対象に実施されました。

当日は、日本女子ソフトボールリーグに加盟している花王コスメ小田原フェニックスの選手が指導者として来校され、協会の役員の方々と共に、熱心な学びが行われました。

投げる・打つ等の基本動作は、運動に親しんでいたとしても日常的に行うことはあまりなく、毎年5月末に実施している体力テストの結果を見ても、種目として計測しているソフトボール投げの記録は年々低下しているとの報告がされています。

今回の経験を、体育の授業で行うベースボール型の学びに生かせるようにしていきたいと思えます。



町議会の見学から得たこと【6年】(1月21日)

開成町議会事務局の支援を受け、6年生が議会見学を行いました。日頃、子どもたちが議場に入ることはなかなか経験できないところですが、町民の一人として、町がどのような仕組みで様々なことを決定しているのを知ることが、町民参画が盛んな本町にとってとても重要です。

当日の前半は、議長さんをはじめ議員の方々もお越しくださり、とてもわかりやすいプレゼンソフトによる説明をとおり学びを深めることができました。

後半は、担任が町長役、子どもたちが議員もしくは町各課の幹部役になり、模擬議会を行いました。驚かされるような鋭い質問が相次ぎ、担任の先生たちがたじたじになるような場面もあり、さすが6年生ともなるとよく考えていることが分かりました。

1月31日には、国会議事堂に校外学習に行きます。全国的に、各種選挙の投票率が下がり続けることが話題になっています。未来を創る子どもたちが、これらの学びから多くの刺激を得られることを期待します。



学校栄養技師の日々の工夫により、毎日工夫した献立が提供されている本校の給食ですが、現在の物価高騰により多くの苦慮があります。そのような中でも、食材を仕入れてくださる方々のご理解により、楽しみにしている子どもたちのために、無事提供がなされています。

上の写真は、1月9日の献立です。写真ではわかりにくいと思いますが、メニューに七草ごはんがありました。下の写真は給食週間(詳細は給食だよりをご参照ください)の1月24日の献立です。日本で最初(明治時代)の給食を再現したものになります。

「食育」という言葉は、今となっては新しいものではありませんが、心身ともに健全な子どもたちを育成するためにはその推進・充実は欠くことができません。食の嗜好はもちろん人それぞれですが、少しでもバランスよく食することができるよう数多くの工夫がなされていますので、ぜひご家庭でも食について話題にしてください。

